

問1 近年、持続可能な発展を目的として注目されている「エコツーリズム」の基本的な考え方や取り組みとして、最も適切なものはどれですか。（2025年 和歌山公立入試 類似）

- 地域の生態系や自然環境を保全し、その価値を損なわない範囲で体験や学習の場を提供することで、環境保護と観光を両立させる。
- 農村や山村に滞在して農業体験や地元の人々との交流を楽しむことで、過疎化が進む地域の活性化を目指す。
- 交通網の整備や大規模な宿泊施設の建設を優先し、短期間にできるだけ多くの観光客を呼び込んで経済効果を高める。
- 自然環境を完全に手つかずの状態に残すために、観光客の立ち入りを厳格に制限し、学術調査以外の目的での利用を禁止する。

問2 九州地方北西部の長崎県などに典型的に見られる、小さな岬と奥行きのある湾が複雑に入り組んで連なる海岸地形を何というか、名称を答えなさい。（2023年 佐賀公立入試 類似）

- リアス海岸
- 干拓地
- 砂州
- カルデラ

問3 九州地方の筑紫平野に関する説明として、温暖な気候や土地の高度な利用方法の観点から、最も適切な説明はどれですか。

（2026年 和歌山公立入試 類似）

- 稲作の収穫が終わった後の水田を裏作として活用し、小麦などを栽培する二毛作が盛んである。
- 1年のうちに同じ水田で2回米を収穫する二期作を行い、食料自給率の向上に貢献している。
- ビニールハウスを利用して夏野菜の成長を早める促成栽培を行い、冬の出荷額を高めている。
- 連作障害を防ぐために、数年ごとに栽培する作物を入れ替える輪作を大規模に導入している。

問4 沖縄県の県庁所在地である那覇を中心とした距離と方位を示す資料では、那覇から2000キロメートル圏内に、中国、ロシア、北朝鮮、そして東南アジア諸国が含まれることが示されます。このような地理的条件が、日本の安全保障や国際政治に大きな影響を与える状況を説明する用語として、最も適切なものはどれですか。（2023年 神奈川県公立入試 類似）

- 地政学
- 排他的経済水域
- 地方交付税交付金
- 非核三原則

問5 鹿児島県などの南九州に広がるシラス台地では、一般的な地域の井戸が約6メートルから10メートル程度の深さであるのに対し、約64メートルもの深さがある「深井戸」が掘られてきました。このように極端に深い井戸が必要とされた理由として最も適切な説明はどれですか。（2024年 福井公立入試 類似）

- 地表を覆う火山噴出物の層が極めて水はけ良く、地下深くの帯水層まで掘り進める必要があるため
- 関東ローム層と呼ばれる粘土質の層が厚く、地表付近の水の浸透を妨げているため
- 花こう岩の地層が地表近くまで迫っており、岩盤の隙間にあるわずかな水を確保するため
- 台風による塩害を防ぐため、海水の混入しない深層の真水を確保する必要があるため

問6 九州地方の周辺を流れる海流が、地域の生活や気候に与える影響について述べた文として、正しいものを選びなさい。（2023年 佐賀公立入試 類似）

（2023年 佐賀公立入試 類似）

- 赤道付近から北上してくる黒潮や対馬海流が暖かい空気を供給するため、冬でも比較的温暖な気候となる。
- 北からのリマン海流が九州の日本海側に冷たい水を運ぶため、冬の九州北部は北海道と同じくらい寒冷になる。
- 太平洋側を流れる親潮の影響で霧が発生しやすくなり、夏でも気温があまり上がらない冷涼な気候となる。
- 日本海を南下する対馬海流が、九州地方に乾燥した冷たい空気を運んでくるため、冬は降水量が非常に少なくなる。

問7 鹿児島県の南方に位置し、人口約3万人のある島に関する統計資料において、「日本最大のロケット打ち上げ施設（宇宙センター）があり、宇宙開発関連の観光が行われている」「農業ではサトウキビの生産が盛んである」と説明されている島はどこですか。（2019年 東京都公立入試 類似）

- 屋久島
- 種子島
- 奄美大島
- 壱岐島

問8 鹿児島県の養豚業における統計的な特徴について説明します。1964年には約5万戸あった飼育戸数が、2014年には約1千戸まで激減している一方で、県全体の総飼育頭数は約100万頭から140万頭の間で維持、あるいは微増しています。このデータから読み取れる、現在の鹿児島県の養豚業の状況として正しいものを選びなさい。（2017年 滋賀公立入試 類似）

- 1戸あたりの飼育頭数が大幅に増加し、経営の大規模化が進んだ状況。
- 養豚農家の減少に伴い、県全体の豚肉生産能力が著しく衰退している状況。
- 小規模な農家が多数残っており、伝統的な飼育方法が守られている状況。
- 飼育戸数と総飼育頭数の両方が減少したことで、豚肉の希少価値が向上している状況

答え合わせ・解説

問1	答え 1 地域の生態系や自然環境を保全し、その価値を損なわない範囲で体験や学習の場を提供することで、環境保護と観光を両立させる。	エコツーリズムは、自然をただの消費財とするのではなく、保護すべき対象として扱いながら、その価値を正しく理解してもらうことで地域を維持していく取り組みです。農村体験を主とするグリーンツーリズムや、大量の観光客を受け入れるマストツーリズムとは、その目的や手法が異なります。
問2	答え 1 リアス海岸	山地の谷の部分に海水が入り込むことで形成される、のこぎりの歯のような複雑な海岸線を指します。長崎県の北松浦半島周辺や長崎半島周辺で顕著に見られ、水深が深く波が静かなため、養殖業や天然の良港として利用されることが多いのが特徴です。選択肢にある「干拓地」は有明海などの遠浅の海を陸地化したものを指し、「砂州」は波の作用で砂が堆積した地形を指します。
問3	答え 1 稲作の収穫が終わった後の水田を裏作として活用し、小麦などを栽培する二毛作が盛んである。	筑紫平野は九州最大級の平野であり、温暖な気候と豊富な水資源を背景に農業が非常に盛んです。特に、米の収穫後の水田で小麦や大麦を育てる「二毛作」は、土地を1年を通じて有効活用する代表的な手法です。二期作は主に米を2回作することを指し、促成栽培は宮崎平野などのビニールハウス農業でよく見られる形態であるため、筑紫平野の土地利用の説明としては、裏作での小麦栽培（二毛作）を挙げるのが適切です。
問4	答え 1 地政学	地理的な位置関係が、その国家の政治、経済、軍事的な戦略にどのような影響を与えるかを分析することを地政学と呼びます。沖縄は、東アジアの主要な国々に近接しているという地理的特性から、日本の安全保障上の要衝（重要な地点）として位置づけられています。
問5	答え 1 地表面を覆う火山噴出物の層が極めて水はけ良く、地下深くの帯水層まで掘り進める必要があるため	南九州に広がるシラス台地は、過去の火山活動による火砕流堆積物（シラス）で構成されています。この層は非常に厚く、かつ粒子が粗いため水はけが良すぎるといった特徴があります。そのため、雨水はすぐに地下へ浸透してしまい、地表付近で水を得ることが困難です。生活用水を確保するためには、この厚いシラス層を貫き、地下水が蓄えられている「帯水層」に到達するまで深く掘り進める必要がありました。
問6	答え 1 赤道付近から北上してくる黒潮や対馬海流が暖かい空気を供給するため、冬でも比較的温暖な気候となる。	九州地方は、太平洋側に黒潮（日本海流）、日本海側に対馬海流という2つの暖流が流れています。暖流は周囲の空気を暖める性質があるため、これらの海流の影響を受ける九州地方の沿岸部では、冬でも氷点下になる日が少なく、温暖な気候が保たれます。選択肢にあるリマン海流や親潮は寒流であり、これらは主に北日本などの気候に影響を与えるものです。
問7	答え 2 種子島	鹿児島県の南方に位置する種子島は、島全域に平坦な丘陵が広がっているのが特徴です。この地形を活かして、日本最大のロケット打ち上げ施設である種子島宇宙センターが設置されており、宇宙開発は島の重要な観光資源にもなっています。また、温暖な気候を利用したサトウキビ栽培も島の主要な産業の一つです。
問8	答え 1 1戸あたりの飼育頭数が大幅に増加し、経営の大規模化が進んだ状況。	飼育戸数が50分の1程度に減少しているにもかかわらず、飼育されている豚の総数が減っていないということは、1つの農家が非常に多くの豚を飼育するようになったことを示しています。これは、資本を集中させて機械化や効率的な設備導入を行い、競争力を高める「経営の大規模化」が進展した結果です。